

V-2 ふりかえりリスト で チェックし、グループで語り合いましょう

埼玉県教育・保育の質を高めるための ふりかえりリスト

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 子どもの最善の利益を尊重する保育 | P1 |
| 2. 近年の子育ち・子育ての実態 | P3 |
| 3. 子どもの主体性を尊重した教育・保育 | P4 |
| 4. 地域と共に（地域ニーズの発掘） | P6 |
| 5. より良い保育環境を整える | P7 |

1. 子どもの最善の利益を尊重する保育

1-（１） 子どもの利益を尊重する保育に関して園内で話し合いを行っている

- ☐ ア 日常の保育の中でも、職員同士、常に意識をして話し合いを行っている
- ☐ イ 職員会議や園内研修などの機会に行っている
- ☐ ウ 行えていない

1-（２） 園で取り組むことができる「子ども最善の利益を尊重する保育」について話し合いを行っている

- ☐ ア 日常の保育の中で自然と話し合っている
- ☐ イ 定期的な会議やミーティングで話し合っている
- ☐ ウ 話し合う機会がない

1-（３） 子どもの声に耳を傾けて、子どもの気持ちに寄り添った保育ができている

- ☐ ア できていると実感している
- ☐ イ できるように意識して取り組んでいる
- ☐ ウ できていないと感じることがある

1-（４） 優しい口調で子どもに接し、強い口調で子どもを叱ったり、大きな声を出していない

- ☐ ア 意識的に穏やかな口調を心がけ、実践できている
- ☐ イ 基本的には優しく話せているが、忙しい時や対応に困った時に強い口調になってしまうことがある
- ☐ ウ 意識はしているが、感情的になってしまうことがあり、改善の余地がある

1-（5） 何事にも、肯定的な声掛けを意識して保育を行っている

- ☐ ア 普段から積極的に肯定的な声掛けを意識し、実践できている
- ☐ イ 基本的には意識しているが、忙しい時や対応に困った時に否定的な言葉になってしまうことがある
- ☐ ウ 肯定的な声掛けの重要性は理解しているが、具体的にどう伝えたら良いか迷うことがある

1-（6） 子ども一人ひとりに適したかかわりを行っている

- ☐ ア 年齢や個々の状況に応じた関わりを常に意識できている
- ☐ イ 基本的には意識しているが、場面によって課題を感じることもある
- ☐ ウ どのように関わればよいか迷うことがある

1-（7） 給食やおやつは栄養バランスに配慮したものを提供し、個々の状況に合わせ適切に援助している

- ☐ ア 一人ひとりの状況に応じて適切に提供し援助できている
- ☐ イ 基本的には配慮しているが、提供方法や援助の仕方について迷うことがある
- ☐ ウ 対応できていない

1-（8） 一人ひとりの個性に合わせた保育をしている

- ☐ ア 一人ひとりの個性を尊重し、柔軟に対応できている
- ☐ イ できる限り意識しているが、課題を感じる
- ☐ ウ できていない

1-（9） 保育者同士で「支え合う」ことができている

- ☐ アお互いに支え合えていると感じる
- ☐ イできる限り支え合おうと意識している
- ☐ ウ支え合う組織体制が整っていない

1-（10） 保育者間で意見を出し合う機会を作り、悩んだり疑問に思ったときに相談できる体制が整っている

- ☐ ア率直に意見を出し合える環境がある
- ☐ イ話し合いの場はあるが、意見を出しにくいことがある
- ☐ ウ相談する環境が整っていない

1. 子どもの最善の利益を尊重する保育

	ア3点	イ2点	ウ1点	
1-（1）				
1-（2）				
1-（3）				
1-（4）				
1-（5）				
1-（6）				
1-（7）				
1-（8）				
1-（9）				
1-（10）				1. 合計
集計	個×3＝	個×2＝	個×1＝	

2. 近年の子育ち・子育ての実態

2-（1） 保護者の送迎時にちょっとした会話で「〇〇ちゃん、今日こんなことをしてましたよ」など、前向きな報告を意識している

- ☐ ア 毎回意識して行えている
- ☐ イ ①時間がある時にはできている
- ☐ ウ ②忙しくてなかなかできていない

2-（2） 園と保護者が「一緒に子どもを育てる」関係を作るために、コミュニケーションを大切にしている

- ☐ ア 日々のコミュニケーションを大切にしている
- ☐ イ ①意識して関わるようにしているが、よりよい方法を模索している
- ☐ ウ ②コミュニケーションの必要性の共通理解がされていない

2-（3） 保護者が気楽に相談でき、保護者の「困っているサイン」に保育者は気づき、必要に応じてサポートや支援につなげる体制が整っている

- ☐ ア できていると感じる
- ☐ イ ①ある程度できているが、さらに工夫が必要
- ☐ ウ ②できていない

2-（4） 子どもに対して、強制的に食事をさせたり、排せつを急（せ）かしたりせず、子どもが安心して無理なく過ごせるような配慮を心掛けている

- ☐ ア いつも意識して配慮している
- ☐ イ ①できるだけ配慮しているが、課題がある
- ☐ ウ ②できていない

2-（5） 食物アレルギーを持つ子どもに対して、コンタミネーション*（混入）を起こさないための仕組みができている

- ☐ Ⓐアレルギー対応のためのマニュアルが整備され、職員全員が理解し実践できている
- ☐ ④できる限り配慮しているが、改善が必要な点がある
- ☐ Ⓔルールやマニュアルが不十分で、リスクを感じることもある



コンタミネーション*

コンタミネーションとは、異物やアレルゲンなどが意図せず混入してしまうことを意味します。保育の現場では、食物アレルギーを持つ子どもへの影響は特に重要です。例えば、アレルギーのある子の食器に、アレルゲンを含む食品が少しでも付着すると、重篤なアレルギー反応を引き起こす等の可能性があります。調理器具や食器を別々に使うなど、ルールやマニュアルを整え、手洗いや清掃を徹底することで防ぐことができます。「少しなら大丈夫」は禁物と覚えておきましょう。

参考：保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019 年改訂版）

2. 近年の子育ち・子育ての実態

	Ⓐ3点	④2点	Ⓔ1点	
2-（1）				
2-（2）				
2-（3）				
2-（4）				
2-（5）				2. 合計
集計	個×3＝	個×2＝	個×1＝	

3. 子どもの主体性を尊重した教育・保育

【保育者個人】

3-（１）子どもが自ら興味・関心をもつ活動に主体的に取り組む環境を整えている

- ☐ ア子どもが自由に選んだり、主体的に取り組む環境を整えている
- ☐ イできる限り整えているが、まだ改善の余地がある
- ☐ ウ充分に取り組めていないと感じる

3-（２）子どもの気持ちを受け止め、対話を大切にできる環境を整えている

- ☐ ア日々の保育の中で、子どもの声をしっかり受け止めている
- ☐ イ意識して関わるようにしているが、もっと工夫が必要だと感じる
- ☐ ウ忙しさや環境の影響で、子どもの話を聞けていないことがある

3-（３）子どもの個性を尊重し主体性を引き出している

- ☐ ア一人ひとりに合わせた対応ができている
- ☐ イできるよう努力しているが、課題がある
- ☐ ウできていない

3-（４）子どもに寄り添い自ら表現できる環境を整えている

- ☐ ア環境が整い、子どもが表現しやすい状況にある
- ☐ イできるだけ配慮しているが、課題がある
- ☐ ウ環境が整っていない

3-（5） 保護者と日々話し合い子どもの成長を共有している

- ☐ ア毎日のやりとりの中で自然に共有できている
- ☐ イ時間があるときに話しているが、十分ではないと感じる
- ☐ ウ話し合う機会がない

3-（6） 保護者と良好な関係を築く体制がとれている

- ☐ ア良好な関係が築けている
- ☐ イできる限り関係を良くしようと努めている
- ☐ ウ信頼関係を築けていない

3-（7） 研修を積極的に取り入れ自己研鑽に努めている

- ☐ ア定期的に研修に参加し、学びを深めている
- ☐ イできるだけ研修に参加しようと心がけている
- ☐ ウ研修の機会が少なく、参加できていない

3-（8） ノンコンタクトタイム（業務時間内に子どもたちと離れる時間）を行える体制が整っている

- ☐ ア計画的に確保できている
- ☐ イできる限り確保するよう努めているが、十分ではない
- ☐ ウ確保できていない

3-（9） 自分自身の気持ちに向き合い保育の振り返りを行っている

- ☐ ア日々振り返りを行い、改善に活かしている
- ☐ イできるだけ振り返るよう意識しているが、不十分に感じる
- ☐ ウ振り返りができていない

【保育者相互】

3-（10） 保育者相互で協働し保育環境の改善を行っている

- ☐ ア協力しながら環境を改善できている
- ☐ イできる限り協力しているが、十分ではない
- ☐ ウ協力できていない

3-（11） 定期的なミーティングを行い、意見を出し合える環境を整えている

- ☐ ア率直に意見を出し合える環境がある
- ☐ イ話し合いの場はあるが、意見を出しにくいことがある
- ☐ ウ意見を出せる場がない

3-（12） 主体的に役割分担をして、取り組む環境が整っている

- ☐ アそれぞれが得意分野を活かし、役割分担できている
- ☐ イできる限り役割分担を意識しているが、課題がある
- ☐ ウ役割分担ができていない

3-（13） 多様な視点で子ども一人ひとりをとらえ、意見を出し合える環境がある

- ☐ ア子ども一人ひとりを多様な視点でとらえ、意見を出し合えている
- ☐ イできる限り意見を出し合っているが、改善の余地がある
- ☐ ウ意見交換ができていない

3. 子どもの主体性を尊重した教育・保育

	ア3点	イ2点	ウ1点	
3-（1）				
3-（2）				
3-（3）				
3-（4）				
3-（5）				
3-（6）				
3-（7）				
3-（8）				
3-（9）				
3-（10）				
3-（11）				
3-（12）				
3-（13）				
3-（14）				
3-（15）				
3-（16）				
集計	個×3＝	個×2＝	個×1＝	3. 合計

4. 地域と共に（地域ニーズの発掘）

【地域（資源・専門機関）との連携】

4-（1） 園が関係機関と連携をとる体制が整っている

- ☐ ㊦地域の機関と定期的に連携を取っている
- ☐ ㊧必要に応じて連携を行っている
- ☐ ㊨連携を取れていない

4-（2） 園の防犯、安全対策が出来ている

- ☐ ㊦定期的に確認し、必要な対策を実施している
- ☐ ㊧ある程度対策はできているが、見直しが必要
- ☐ ㊨まだ十分な対策ができていない

【地域社会への発信（公開保育等）】

4-（3） 地域にとって開かれた園となっている

- ☐ ㊦地域にとって開かれた活動を積極的に行っている
- ☐ ㊧限られた機会で開催した活動を実施している
- ☐ ㊨開放的な取り組みができていない

4-（4） 保育参加や保育者体験等、保護者等の保育への参加の機会を提供している

- ☐ ㊦積極的に提供している
- ☐ ㊧機会を作るよう努力しているが、十分ではない
- ☐ ㊨実施できていない

4-（5） 園庭開放や公開保育等子育て支援を積極的に行っている

- ☐ ㊦定期的に実施し、地域の子育て支援を行っている
- ☐ ㊧必要に応じて実施しているが、機会は少ない
- ☐ ㊨行えていない

4-（6） 保育内容や保育の質向上に配慮するよう努めている

- ☐ ㊦継続的に取り組んでいる
- ☐ ㊧できる限り意識しているが、まだ課題がある
- ☐ ㊨取り組めていない

4-（7） 保護者や地域への保育等の説明が常に出来る体制が整っている

- ☐ ㊦いつでも説明できるように意識している
- ☐ ㊧必要に応じて説明しているが、課題がある
- ☐ ㊨うまく説明できていないと感じる

4-（8） 子どもの発達や家庭内での困りごと等の相談に、乗ることの出来る体制が整っている

- ☐ ㊦保護者が気軽に相談できる体制が整っている
- ☐ ㊧相談に対応できるように努めているが、十分ではない
- ☐ ㊨相談できる仕組みがほとんどない

4-（9） 個人情報の保護が徹底されている

- ☐ ㊦園内でしっかり管理されている
- ☐ ㊧基本的なルールはあるが、改善が必要な部分がある
- ☐ ㊨ルールが曖昧で、不安を感じる

4-（10） ホームページや SNS 等、積極的に活用し保育の理解に努めている

- ☐ ㊦定期的に情報発信している
- ☐ ㊧必要に応じて発信しているが、もっと活用したい
- ☐ ㊨ほとんど活用できていない

4. 地域と共に（地域ニーズの発掘）

	㊦3点	㊧2点	㊨1点	
4-（1）				
4-（2）				
4-（3）				
4-（4）				
4-（5）				
4-（6）				
4-（7）				
4-（8）				
4-（9）				
4-（10）				4. 合計
集計	個×3＝	個×2＝	個×1＝	

5. より良い保育環境を整える

【インクルーシブ保育への取り組み】

5-（１） インクルーシブ保育を行う環境が整っている

- ☐ ㊦必要な環境を整えている
- ☐ ㊩ある程度はできているが、まだ課題がある
- ☐ ㊭ほとんど対応できていない

5-（２） 一人ひとりを尊重した教育・保育を行うための研修等を通し、理解を深めている

- ☐ ㊦積極的に研修を受け、理解を深めている
- ☐ ㊩できる限り学んでいるが、まだ不十分と感じる
- ☐ ㊭研修の機会がなく、学ぶ時間が取れていない

5-（３） 医療的ケアを必要とする子どもの入所に伴い、看護師の配置や発達支援計画等が作成出来る体制が整っている

- ☐ ㊦必要な体制が整っている
- ☐ ㊩基本的な対応はできているが、専門的な支援や職員のスキルアップが必要だと感じる
- ☐ ㊭体制が整っていない

5-（４） 保護者と保育者で協働し子どもの育ちを支援できる体制が整っている

- ☐ ㊦保護者との連携が円滑で、お互いに協力しながら子どもの育ちを支えられている
- ☐ ㊩基本的に連携できているが、さらなる工夫が必要だと感じる
- ☐ ㊭保護者との関係構築が難しく、協力できていないと感じる

【自己評価の活用】

5-（5） 保育を振り返るためにチェックシート等を使って確認している

- ☐ ㊦定期的に実施し、振り返りを行っている
- ☐ ㊧必要に応じて行っているが、十分ではない
- ☐ ㊨実施できていない

5-（6） セルフチェックを行い、課題の抽出や改善への対策を行っている

- ☐ ㊦できている
- ☐ ㊧ある程度できているが、さらに工夫が必要
- ☐ ㊨できていない

5-（7） 園の自己評価を行い、改善に取り組む体制が整っている

- ☐ ㊦毎年実施し、改善に向けた取り組みを行っている
- ☐ ㊧必要に応じて行っているが、取り組みが十分ではない
- ☐ ㊨実施できていない

【研修（園内・園外）機会の確保】

5-（8） 年間での研修計画が出来ている

- ☐ ㊦計画的に研修を実施している
- ☐ ㊧必要に応じて研修を実施している
- ☐ ㊨研修の機会が少なく、計画的に実施できていない

5-（9） 他の保育施設間での公開保育等、交流し学び合える体制が整っている

- ☐ ㊦積極的に交流を行っている
- ☐ ㊧機会を増やしたいと思っているが、まだ少ない
- ☐ ㊨ほとんど交流の機会がない

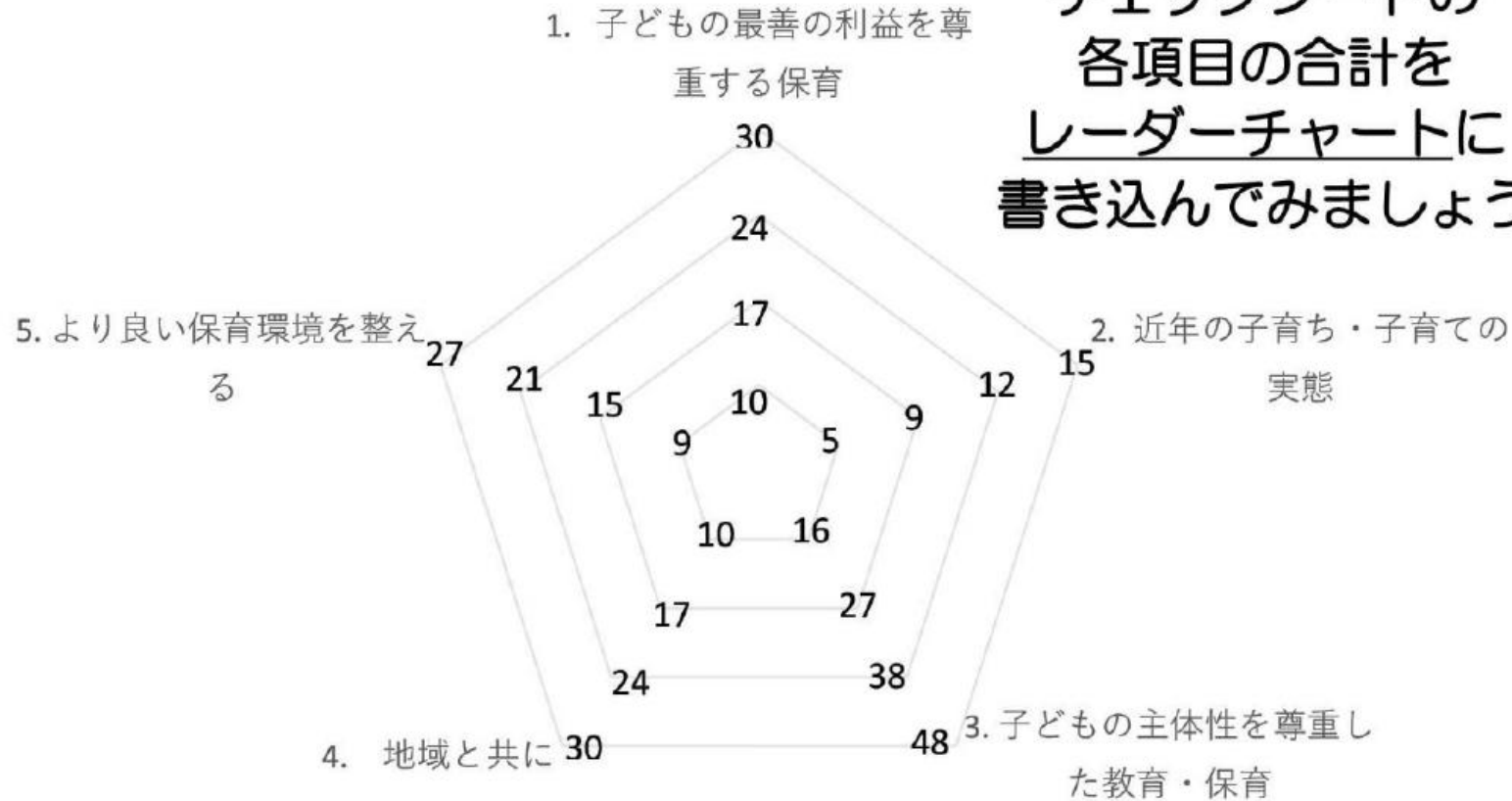
5. より良い保育環境を整える

	㊦3点	㊧2点	㊨1点	
5-（1）				
5-（2）				
5-（3）				
5-（4）				
5-（5）				
5-（6）				
5-（7）				
5-（8）				
5-（9）				5. 合計
集計	個×3＝	個×2＝	個×1＝	

ふりかえりリスト チェックシート

レーダーチャート

チェックシートの
各項目の合計を
レーダーチャートに
書き込んでみましょう



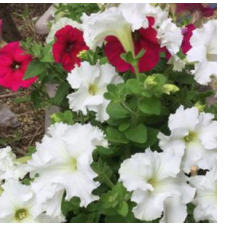
【自由記述】

(みんなで保育をより良くしていくために、ちょっとした気づきや感じたことを自由に書いてください。どんな小さなことでも、振り返ってみることは、あなたの成長につながります。自分の言葉で残しておくことで、次に活かせることもあるかもしれません。もし今の自分にアドバイスをするなら、どんなことを伝えますか。率直な気持ちを自由に気楽に書いてみてくださいね)





私の園～一人ひとりを活かす組織・・・



保育所、認定こども園等での生活の基本



する保育

質の高い保育(教育)



保護者と子育ての を共有

地域の子育て支援

子どもの最善の利益

○保育にかかわる者の資質・

・



V-3 あらためて、私の園の保育の質向上への対応

努力・工夫等

課題

第5章

1 職員の資質向上に関する基本的事項

(1) 保育所職員に求められる専門性

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる。

各職員は、自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育所内外の研修等を通じて、保育士・看護師・調理員・栄養士等、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めなければならない。

職員がもつべき倫理観の具体的な内容については、職種ごとの関係団体において、それぞれの専門性を踏まえた倫理綱領などが定められている。保育士については、全国保育士会において、「全国保育士会倫理綱領」が定められている。この倫理綱領では、保育士に求められる子ども観やそれを踏まえた保育の基本姿勢及び保育士としての使命と役割を掲げた上で、子どもの最善の利益の尊重、プライバシーの保護、子どもの立場に立って言葉にできない思いやニーズを的確に代弁することなど、保育士の職務における行動の指針が示されている。



2 施設長の責務

(1) 施設長の責務と専門性の向上

さらに、保育の質への影響が大きいことを自覚し、人間性を高めるなど、日頃から自己研鑽^{さん}に努めなくてはならない。保育所保育指針に示される基本原則を踏まえ、保育の理念や目標に基づき、子どもの最善の利益を根幹とする保育の質の向上を図り、その社会的使命と責任を果たすよう、保育所全体で質の高い保育を行うためのリーダーシップを発揮することが必要である。同時に、チームで行う保育の基礎となる職員一人一人の専門性の向上の機会を提供又は確保することが肝要である。



VI研修での学び・今後にどのように活かすか



おわりに

廊下で



泣いている子がある。涙は拭いてやる。泣いてはいけないという。なぜ泣くのと尋ねる。弱虫ねえという。・・・随分いろいろのことはいいもし、してやりもするが、ただ一つしてやらないことがある。泣かずにいられない心もちへの共感である。

お世話になる先生、お手をかける先生。それは、有り難い先生である。しかし有り難い先生よりも、もっとほしいのはうれしい先生である。

そのうれしい先生はその時々的心もちに共感してくれる先生である。

倉橋惣三

「育ての心」より